

### CONTENTS

- 1 ごあいさつ
- 2 NCPR復習コース「スキルアップコース」が始まりました
- 6 NCPRトレーニングサイト特集
- 13 〈NCPR講習会開催日より〉勤医協札幌病院
- 15 〈NCPR講習会開催日より〉沖縄県周産期ネットワーク協議会

## ごあいさつ

### 細野 茂春

新生児蘇生法委員会 委員長  
 日本大学医学部 小児科学系 小児科学分野 准教授  
 同 総合周産期母子医療センター 室長



新生児蘇生法普及事業が日本周産期・新生児医学会の学会事業として2007年に発足して8年が経過し、本事業は「質」「量」とともに飛躍的に発展してきました。2015年3月末現在、講習会開催数は6,280件、講習会受講者は累計82,307名となり、修了認定者数は53,811名、内インストラクターは3,985名（I認定2,495名・J認定1,490名）となりました。

また、2012年から始まった更新者は今後年間10,000人規模となり新規受講者を上回る数となる見込みです。2015年度よりこのような状況に対応すべく新たな制度を導入致しましたのでご報告致します。

#### 1. スキルアップコース（Sコース）の新設

現在はeラーニング及び公認講習会の講義部分の聴講により知識の確認のみとなっていますが、実技を中心とした講習会の要望が多く寄せられたため、委員会では1年をかけて実技を中心とした3時間の復習コースを作成し2015年4月より「スキルアップコース（Sコース）」として運用を開始しました。各インストラクターにおかれましては既に運用マニュアル、教材をお送りしておりますので地域の実情に合わせて新規認定者へのA/Bコース、既に認定を取得している方に向けてはSコースといった弾力的運営をよろしくお願い致します。

#### 2. インストラクターのトレーニングサイト登録制度の導入

コース運営には多くの労力を要します。イン

ストラクターの資格を取ったもののインストラクションの場が無かったり、指導に自信がなく初回のインストラクションに踏み出せない方々に対してインストラクションの場を提供すると共に、インストラクター同士で顔の見える協力関係を構築するためにトレーニングサイトの登録制度を導入致しました。既に多くのインストラクターが登録されていますので登録がお済みで無い方は是非この機会にご登録をお願い致します。

2015年10月には本事業開始から2回目の改訂となるConsensus2015が発表されます。それにあわせ、我が国の周産期医療の現状に合わせた日本版新生児蘇生法ガイドライン2015の作成に着手したところです。蘇生の本質であるマスクとバッグによる人工換気と胸骨圧迫の手技の重要性は普遍的なものです。2015年度改訂版に沿った講習会の教材作りもガイドラインが固まったところで平行して行っており、新たな講習会資料も事前に各トレーニングサイトで講習会を開催し検証作業を行った後、2015年度版に移行する予定にしております。

また2016年度には認定期間の見直しを含めた「制度改革」も行われる予定です。

ガイドライン2015の報告と新たな講習会への移行について、また制度改革の内容は次号のニュースレターで皆様に改めてお知らせ致します。

# NCPR復習コース『スキルアップコース』が始まりました

前号でご紹介した修了認定者対象の復習コース「スキルアップコース」が4月からスタートしました。

今回は、全国のトレーニングサイトで実施した「トライアル版のご報告」と具体的なコース内容や受講するにはどうしたら良いかなどをご紹介します。

## 杉浦 崇浩

静岡済生会総合病院 小児科

### 1. スキルアップコーストライアル版の実施報告

A/Bコース修了認定者の皆さんへの『蘇生技術の質の維持』を目的としたNCPRスキルアップコース（以下Sコース）をより良いコースとすべく、2014年の3月から東京Cトレーニングサイト（日本大学医学部附属板橋病院）を皮切りに2015年3月までの約1年間、全国のトレーニングサイトを中心にSコースのトライアル版を試験的に開催してきました。このトライアル版では受講者の皆さんのチェックリストの回収、分析、および受講後アンケートにご協力いただきこのコースの評価を実施しました。

最終的にSコーストライアル版の開催回数は合計40回、269人の皆様にご参加いただきました。

受講者チェックリストを集計した結果、受講者の皆さんがSコース受講前に自信がない（しっかり理解できていない・実施できない）と感じている部分がいくつか抽出されました。具体的には

- 自己膨張式バックでは
  - ① 40～60回/分で人工呼吸を行う。
- 流量膨張式バックでは
  - ① 20～30 cmH<sub>2</sub>Oの圧で人工呼吸を開始する。
  - ② 40～60回/分で人工呼吸を行う。
- 両母指包み込み法による胸骨圧迫では
  - ① 圧迫期は、胸壁の厚さ1/3程度がへこむ強さで圧迫する。
  - ② 1分間に120回のペース（1サイクル2秒）で圧迫する。

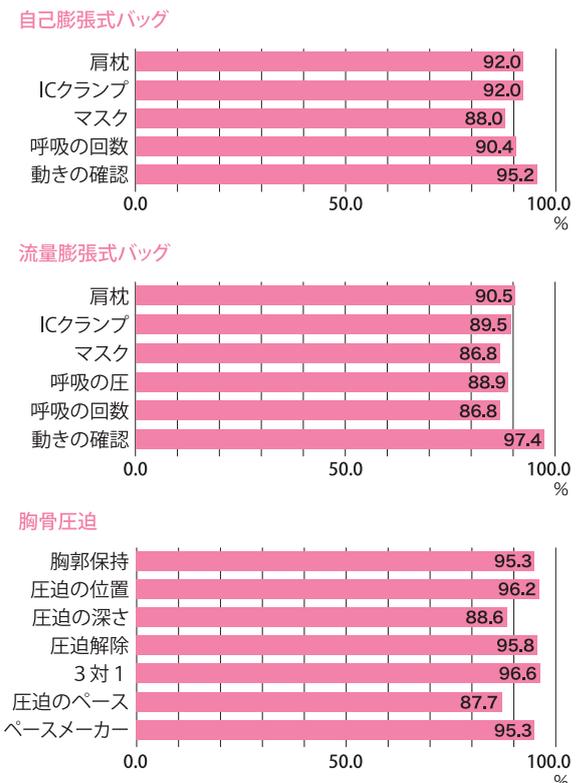
といった点でした。ただしこれらの項目は全てSコース受講後に改善していることが確認されました。

このようにチェックシートを用いることにより、インストラクター側も事前に受講者に自信がないと推定されるポイントを予測できると同時に、受講者の皆さんも自信がないと感じるポイントを明確にし、そこが改善したかどうか受講者の皆さん自身で容易に確認することができます。

Sコースでは受講者の皆さん自身で是非このチェックリストを活用してください。

またSコーストライアル版では、受講者の皆さんが手技に関してこのチェックシートをつけるのに平

図1 受講後のプロバイダーとインストラクター間の評価の一致率



行してインストラクターも同様に各受講者の手技についてチェックシートをつけ、その関係性についても検討しました。その結果ほぼ全ての項目において受講前、受講者の皆さんの手技に対する自己評価はインストラクターよりも低くばらつきが目立ちましたが、受講後は83.7%~96.8%と高い一致率であることが分かりました(図1)。

このことから受講者の皆さんは受講前、自身の手技を過小評価しがちであり、受講後の皆さんの自己評価はある程度信頼して良いものと推定されました。

さらにトライアル版の受講者に行ったアンケートでは、コース受講前に対し受講後では有意に新生児の蘇生を実践する自信が改善していることがわかりました(図2)。さらに受講者の皆さん全員にこのコースの受講を推奨していただきました(図3)。

図2 受講前後の自信の推移

Q. NCPR(新生児の蘇生)を実践する自信はある?

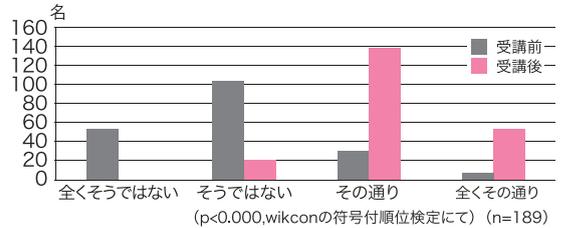
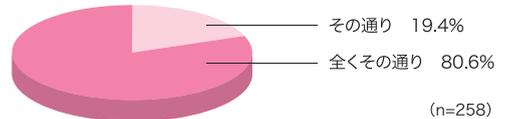


図3 コース推奨度

Q. このコースの受講を勧めますか?



これらの結果よりSコースはトライアル版からほとんど修正することなく、皆様に開催・受講していただくこととなりました。

### スキルアップコースの受講対象者

Sコースの受講対象者は「NCPR修了認定者」です。修了認定者であれば有効期限内に何度でも受講が可能です。  
 ※NCPR講習会の受講経験者であっても修了認定者でなければ受講いただけません。また有効期限が切れている方も受講いただけません。過去にさかのぼり認定・更新手続きをご希望の場合は事務局までご連絡ください。



### スキルアップコースを受講するには

NCPRのホームページからメニューの「講習会開催予定情報」→「スキルアップコース(Sコース)」をクリックします。

- ①ご希望の地域・開催日から講習会を検索できます。
- ②開催予定一覧が出てきます。※開催予定は1週間ごとに更新されます。
- ③「一般公募あり」の講習会は募集要項の添付ファイルがありますので、その内容に沿って受講の申し込みをしてください。「一般公募なし」の講習会は、既に「定員」に達しているか、又は受講者の対象に制限がありますので直接担当者へお問合せください。

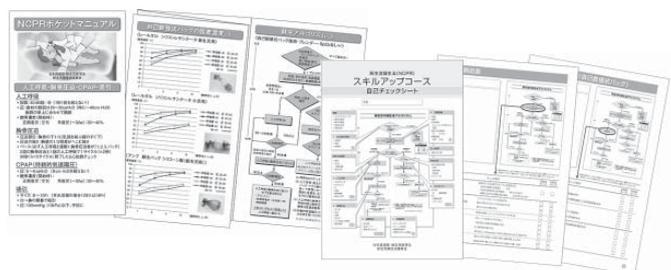


### 更新のための履修について

更新時期が近い場合はSコースの受講をもって「更新のための履修終了」となります。更新のお手続き方法についてはホームページからメニューの「各種手続きのご案内」→「認定を更新される方へ」をご覧ください。

### 継続学習支援ツールについて

スキルアップコースを受講すると、継続学習支援ツールとして NCPR のポイントをまとめた「ポケットマニュアル」とコースで使用した「自己チェックシート集」を差し上げます。

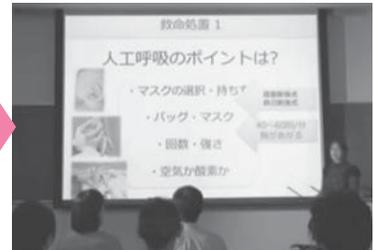


## 2. スキルアップコースの内容のご紹介

### スキルアップコースの標準 3 時間コースプログラムについて

#### I. 講義

講義は標準 20 分です。  
 最小限の復習のための講義となりますので、新生児蘇生法テキストや e ラーニングで事前学習をしてから参加しましょう。



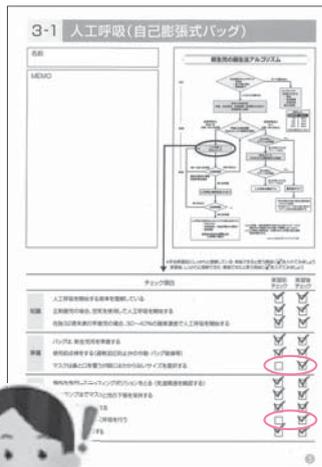
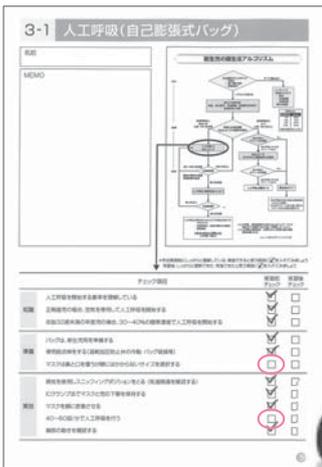
#### II. 手技実習

基本手技実習は標準 70 分です。  
 メインで実習する手技は「人工呼吸」と「胸骨圧迫」です。必要に応じて「初期処置」「CPAP」「薬物投与」「気管挿管（介助）」なども行われます。

まず各手技の実習に先立ち、自己チェックシートを用いて、それぞれの項目に理解しているか・実施できると思うかを各自で実習前✓します。そうすることで自信のないポイントを中心に学ぶことができます。

次にインストラクターの指導のもと実際に手技実習を行います。必要に応じてインストラクターのアドバイスを受けたり、前チェックで自信がないと感じた点について質問もできます。

実際の手技実習が終わったら、再び自己チェックシートを用いて実習後✓をしましょう。実施前に自信がなかった点は解決されましたか？またさらに復習すべき点はないか確認しましょう。



### Ⅲ. シナリオ実習

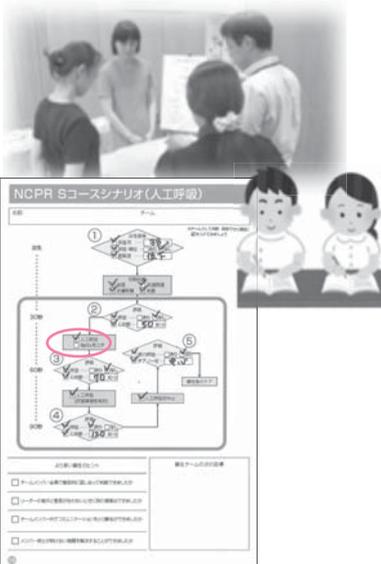
シナリオ実習は標準 70 分です。

A/B コースとは異なり、3 名程度でチームを作りチーム全員でシナリオ実習を行います。

チームで 1 回目のシナリオを実施します。  
シナリオ実施後チェックシートを用いて、チームとして行った評価・行動に対して✓をします。

インストラクターを交えて、チェックシートをもとに、良かった点、✓がつかなかった項目などを中心にそのシナリオ症例の振り返りを行います。振り返りの後、次のシナリオ実施に向けて「チームとしての目標」をたてます。

同じチームで 2 回目のシナリオを実施します。チームでたてた目標は達成されましたか? またさらに復習すべき点はないか確認しましょう。  
時間が許せばさらに別の症例も行います。



### 3. スキルアップコースの開催と受講のお願い

「日々の臨床の現場で継続的に復習が行われること」は新生児蘇生の質を維持するための重要なポイントです。皆さんの『手』が、皆さんの目の前の『あかちゃん』を助けます。全国各地のインストラクターの皆様によってNCPR スキルアップコースが開催され、A/Bコースの認定をお持ちの方々がこのコースを受講する事によって『蘇生技術の質の維持』、そしてあかちゃんの予後の改善に結びつくことを願っています。

最後にSコーストライアル版開催、及びアンケートにご協力いただいた各御施設、インストラクターの皆様、及び受講者の皆様に深謝いたします。

### ●Sコーストライアル版開催施設 ※開催順

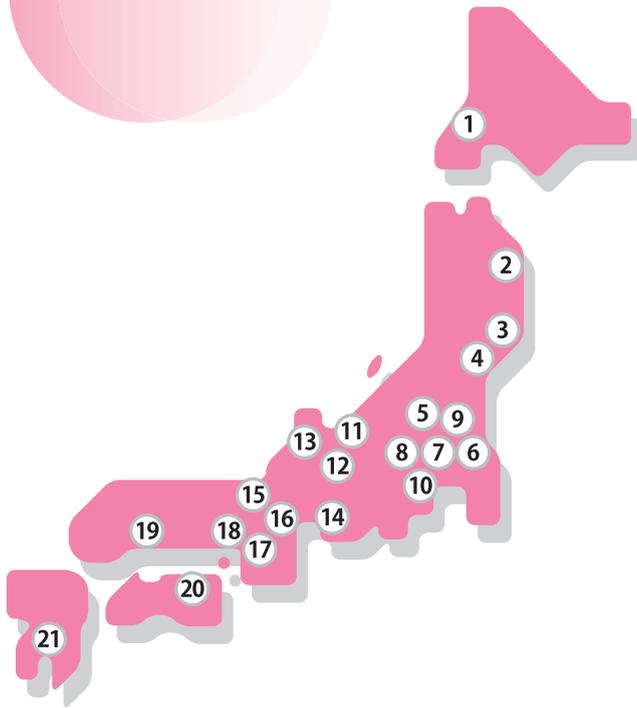
- 日本大学医学部附属板橋病院
- 石川県立中央病院
- 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院
- 筑波大学附属病院
- 静岡済生会総合病院
- 岐阜県総合医療センター
- 埼玉医科大学総合医療センター
- 長野県立こども病院
- 北里大学
- 京都第一赤十字病院
- 名古屋市立大学病院
- 鹿児島市立病院
- 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会附属愛育病院

# NCPРトレーニングサイト特集

トレーニングサイトが全国に展開して4年が経過し、「インストラクター養成コース」及び「インストラクター対象のフォローアップコース」が定期的に各地で開催されるようになりました。今後はさらに地域ごとのNCPРインストラクターの活動支援を積極的に推進するため、新たな取り組みを行っていきます。

**2015年5月現在、NCPРトレーニングサイトは21ヶ所となりました。**

トレーニングサイト21ヶ所をご紹介します。各地域さまざまな特徴がございます。サイト長からのメッセージをご覧いただき、ぜひ各サイトの講習会へご参加ください。



- ①北海道 北海道大学病院
- ②岩手 岩手医科大学附属病院
- ③宮城 宮城県立こども病院
- ④茨城 筑波大学附属病院
- ⑤埼玉 埼玉医科大学総合医療センター
- ⑥千葉 東京女子医科大学八千代医療センター
- ⑦東京A 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会附属愛育病院
- ⑧東京B 日本産婦人科医会
- ⑨東京C 日本大学医学部附属板橋病院
- ⑩神奈川 北里大学
- ⑪新潟 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院
- ⑫長野 長野県立こども病院
- ⑬石川 石川県立中央病院
- ⑭愛知 名古屋市立大学病院
- ⑮京都 京都第一赤十字病院
- ⑯大阪A 大阪大学医学部附属病院
- ⑰大阪B 公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院
- ⑱兵庫 兵庫県立こども病院
- ⑲広島 広島市立広島市民病院
- ⑳香川 香川大学医学部附属病院
- ㉑鹿児島 鹿児島市立病院

## 1 北海道トレーニングサイト



北海道大学病院 長 和俊 先生

北海道は出生数に対するインストラクター数は比較的多いのですが、面積が広大でインストラクターが分散しているため、フォローアップコースに対するニーズが高いです。インストラクター養成コースは、札幌に加えて旭川や函館でのサテライト開催を行ってきました。また今後のスキルアップコースにも期待が寄せられています。インストラクター養成／フォローアップコースには、道外から参加される方もおられます。道外から参加の皆様には各地の状況などを共有させていただけるとありがたいです。



## 2 岩手トレーニングサイト



岩手医科大学附属病院 **松本 敦 先生**

岩手医科大学附属病院は県内唯一の総合周産期母子医療センターとして周産期医療の人材育成を担ってきました。しかし岩手県や北東北は面積が広大なため、地域毎の人材はまだ不足しており、今後もさらに北東北も含めた新生児蘇生法事業の普及や人材育成のために頑張りたいと思います。この機会に地域の現状を見ていただきたいとも思いますので、東北の方だけでなく是非全国の方々にご参加いただければと思います。



## 3 宮城トレーニングサイト



宮城県立こども病院 **室月 淳 先生**

当院は全国でも少ない産科主導型のトレーニングサイトです。分娩の半数は診療所で取り扱われていますが、診療所の医師やスタッフのNCPN受講率はまだまだ低いのが現状です。今年の目標は、新生児蘇生法への垣根を少しでもなくすため必要な手順や物品についてひと工夫して、そういった方々にひとりでも多く受講していただけるように考えています。ひいてはそれが新生児の予後をよりよくするための道になると思います。



## 4 茨城トレーニングサイト



筑波大学附属病院 **宮園 弥生 先生**

筑波大学は2012年にトレーニングサイトに認定され、現在までにインストラクター養成コース4回、フォローアップコース1回を開催しています。かつては「陸の孤島」というイメージが強かった“つくば”ですが、今では鉄道（つくばエクスプレス）が通り、秋葉原から45分とアクセスが飛躍的に向上しました。万葉集にも詠まれた筑波山をはじめとする豊かな自然と、最先端の科学・技術が調和したTsukuba Science Cityと一緒にNCPNについて学べることを楽しみにしています。



## 5 埼玉トレーニングサイト



埼玉医科大学総合医療センター **田村 正徳 先生**

サイトインストラクター **野村 雅子さん**

埼玉サイトでは、埼玉県内の周産期医療に携わる医師・看護師・助産師の皆様へ、新生児蘇生の基本を学ぶ「場」を提供してきました。今後は更に個人のスキルの維持やチームとしての蘇生を学ぶ「場」やインストラクターとしての経験を積む「場」、インストラクター同士の交流の「場」を提供し、周産期分野での人材育成に貢献したいと考えています。新生児蘇生の学びの場として、埼玉サイトをぜひ活用ください!!



## 6 千葉トレーニングサイト



東京女子医科大学八千代医療センター **正岡 直樹 先生**

千葉県のトレーニングサイトとなっております。東京女子医科大学八千代医療センターです。当院は東葛南部に位置しており東京駅から40分程で来ていただくことのできる比較的至便な場所にあります。まだインストラクター養成コース1回だけの実績ですが、施設内のインストラクターも含め、より多くの方に、より多くの機会を提供できますよう努力していく所存です。今後ともよろしくご願ひ申し上げます。



## 7 東京Aトレーニングサイト



社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 加部 一彦 先生  
附属愛育病院

愛育病院はNCPRの最初のトレーニングサイトとしてスタートしました。2015年2月に芝浦の新病院に移転しました。インストラクター養成コースをはじめフォローアップコース、院内中心の専門(A)コース等さまざまなNCPR講習会を開催しております。適宜公募もしておりますので、ぜひ一度愛育病院にいらしてください。



## 8 東京Bトレーニングサイト



日本産婦人科医会 関沢 明彦 先生(昭和大学病院)

分娩の半数が個人クリニックで行われている我が国において、新生児蘇生法をすべての分娩を取り扱う産婦人科医に研修していただきたいとの考えから、日本産婦人科医会(医会)もトレーニングサイトとなって活動しています。医会は全国の約12000人の産婦人科医から成る組織で、全国に支部(都道府県医会)があります。その支部で母子保健を担当する医師を主な対象として講習会を毎年開催しています。インストラクターとなった先生には各地域における講習会で活躍していただくことで、すべての産婦人科施設で適切な新生児蘇生法が実施できる体制を作っていきたいと考えています。



## 9 東京Cトレーニングサイト



日本大学医学部附属板橋病院 細野 茂春 先生

東京Cトレーニングサイトは2012年に認定されました。現在、インストラクター10名で専門(A)コース、インストラクター養成コース、フォローアップコースを定期的に開催しています。専門(A)コースは完全公募で2か月に1回の開催を目標に活動しています。登録制が始まりましたので登録インストラクターと連携して専門(A)コース・スキルアップコースのニーズをみながら毎月開催も視野に入れています。スキルアップをお望みのインストラクターは是非当トレーニングサイトにご登録いただき一緒に活動しましょう。



## 10 神奈川トレーニングサイト



北里大学 岡 園代 さん

当センターは、学会と関連したコメディカル対応のサイトとして運用しています。開催するコースは看護職種の割合が多く、女子力(おばさん力)満載のにぎやかな開催になっています。多くの看護職の方のご参加をお待ちしております。



## 11 新潟トレーニングサイト



新潟大学地域医療教育センター 和田 雅樹 先生  
魚沼基幹病院

新潟トレーニングサイトは最も新しいサイトです。地域医療教育センターと大学病院の両者を有機的に連携させながら、NCPRの普及と赤ちゃんの健康を守るために活動していきます。通常のインストラクター養成コース、フォローアップコース、専門(A)コース、一次(B)コース、スキルアップコースはもとより、高機能シミュレーターを使用したシナリオ演習や模擬新生児蘇生室でのシミュレーションなど新たな取り組みも行っていきます。



## 12 長野トレーニングサイト



長野県立こども病院 廣間 武彦 先生

当センターではNCPRが稼働する1年前から長野県全域に出張新生児蘇生を行ってきており、元祖トレーニングサイト(自称です)と自負しております。

今年度は助産所や自宅で分娩を行う助産師さんと救急救命士を対象に蘇生講義を重点的に行っております。長野は遠いですが旅行がてら長野県での蘇生講習には是非お寄りください。



## 13 石川トレーニングサイト



石川県立中央病院 久保 実 先生

石川サイトは北陸新幹線開業に沸く金沢市の石川県立中央病院にあります。以前から北陸は熱心なインストラクターがいて活発に活動してきたので、かなりNCPRの普及が進んでいます。石川でのインストラクター養成コースにおいては受講者枠に比較的余裕があると予想されますので、グルメや観光も兼ねて受講に来てください。インストラクターの登録も歓迎いたします。“美味しいお弁当を食べながら楽しく学ぶ”がモットーです。



## 14 愛知トレーニングサイト



名古屋市立大学病院 加藤 丈典 先生

愛知トレーニングサイトでは高機能シミュレーターを6台配備しており、より実践的な講習を受講することができます。「新生児蘇生法講習会を受けたけれど、臨床現場ではまだ自信がないなあ…」「これからインストラクターの経験をたくさん積みたい」など様々なご要望に応えられるような、そして気軽に参加していただけるような講習会をこれからも定期的に開催していきたいと考えています。皆様の参加をお待ちしています。



## 15 京都トレーニングサイト



京都第一赤十字病院 木下 大介 先生

京都第一赤十字病院新生児科の木下です。当サイトは京都滋賀を中心としたメンバーで運営しています。当サイトでのインストラクターコース・専門(A)コース/一次(B)コース/スキルアップコースを盛り上げていけるよう、継続的にがんばります。一見様もお断りしません。お手伝いいただける方はお気軽にお声掛けください。



## 16 大阪Aトレーニングサイト



大阪大学医学部附属病院 和田 和子 先生

大阪Aトレーニングサイトは、大阪大学医学部附属病院14階が会場です。見晴らしもよく、窓から万博公園の太陽の塔がよく見えます。病院前にモノレールの駅があり伊丹空港、新大阪駅とのアクセスもスムーズです。当サイトの最大の特徴は、アイスブレイクのレベルの高さでしょうか。＜ややうけた＞くらいが普通で、＜オチがない＞場合は「お近くの方ではないようだ」と判断されます。お気をつけていらしてください。



## 17 大阪Bトレーニングサイト



公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 水本 洋 先生

北野病院は大阪第2のトレーニングサイトとして認定していただきました。新大阪駅からタクシーで10分、大阪駅からも徒歩圏内と、交通の便は最高です。普段なかなか蘇生をする機会の無い全ての施設において、いざという時に有効な新生児蘇生が実践できるような体制を維持することが私たちの目標です。何でも気軽にご相談ください。経験豊富なインストラクターの派遣や公募型講習会の案内など、お手伝いさせていただきます。



## 18 兵庫トレーニングサイト



兵庫県立こども病院 芳本 誠司 先生

2014年よりトレーニングサイトに加えていただきました。近隣のサイトの皆さんと協力してNCPRの普及、レベル維持にお役に立ちたいと思っています。当施設は現在歴史ある須磨山の手にあります。来年度、人工島ポートアイランドに移転いたします。神戸空港、新神戸駅いずれからも非常に便利な場所になりますので全国から来ていただくことが容易になります。講習会のみならず施設見学、就職相談等なんなりとご連絡ください。



## 19 広島トレーニングサイト



広島市立広島市民病院 西村 裕 先生

広島トレーニングサイトの西村裕です。広島市の中心部にある広島市民病院に私達のサイトがあります。インストラクター養成コースとフォローアップコースをそれぞれ年に1回ずつ、その他に専門(A)・一次(B)コースを数回ずつコツコツと行っております。広島は大変魅力的なところで、二つの世界遺産(原爆ドームと厳島神社)があり、広島カープの本拠地マツダスタジアムも近いです。お勉強のあとは美味しいお好み焼きはいかがですか?皆様のお越しをお待ちしております。



## 20 香川トレーニングサイト



香川大学医学部附属病院 安田 真之 先生

2015年4月より香川トレーニングサイト長となりました、香川大学医学部附属病院総合周産期母子医療センターの安田と申します。当トレーニングサイトは四国内を中心に活動しております。四国で唯一のサイトとして各コースの運営とそのお手伝いをできればと思っております。至らぬ点多いかと思いますが、地域の周産期医療充実のため、ご協力宜しくお願い申し上げます。



## 21 鹿児島トレーニングサイト



鹿児島市立病院 茨 聡 先生  
サイトインストラクター 徳久 琢也先生

2015年5月1日、鹿児島市立病院は新病院へ移転しました。新しいNICUは、旧病院の約1.5倍の広さで、最新の設備(エアーカーテンを備えたクリーンルーム、新生児専用手術室、透視室等)や最新の機材(人工呼吸器、ECMO、血液浄化装置等)を用いた医療を行っています。NCPRの実技を行う部屋も常設し、手技の習得や教育にも力を注いでいます。ぜひ鹿児島トレーニングサイトでお会いしましょう。



## インストラクターのトレーニングサイト登録制の開始

前号でご案内した「インストラクタートレーニングサイト登録制」が5月よりスタートしました。是非インストラクターの皆様は本制度をご活用いただき、日本全国で全ての周産期医療従事者がより容易に質の高い新生児蘇生法講習会が受けられるよう、また地域のインストラクター同士の交流のきっかけとなれば幸いです。

トレーニングサイト登録制

**トレーニングサイトでは**

今度のAコースでインストラクターが足りない!地域のインストラクターに声をかけたいが、どうしたらいいかな?

今度トレーニングサイトでフォローアップコースを開催するので地域の皆さんに参加を募りたい!

**各地のインストラクターは**

インストラクター資格を取ったがなかなか開催ができない。講習会に参加してインストラクターの経験をもっと積みたい!

院内で初めて講習会を開催するけれど、ベテランのインストラクターに手伝ってもらいたい!

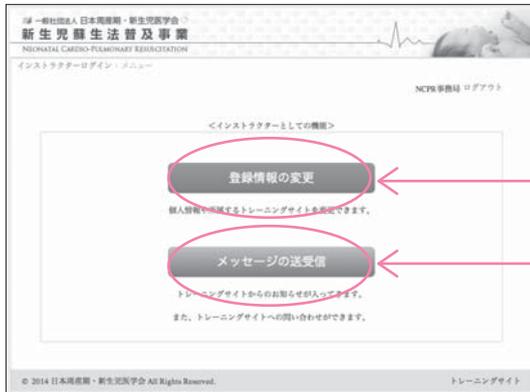
- **インストラクターの資格を取得してもなかなか活動の機会がない方**  
⇒登録したトレーニングサイト又は関連施設での NCPR 講習会にインストラクターとして参加できる機会を提供いたします。
- **自施設での NCPR 講習会の開催するときにベテランインストラクターに手伝ってほしい方**  
⇒登録したトレーニングサイトに連絡ができ、インストラクターの派遣を依頼できます。
- **地域のインストラクター間で情報交換をしたい・困っていることを相談したい方**  
⇒登録したトレーニングサイトとのメールのやりとりが可能です。  
⇒登録したトレーニングサイトで行われる「フォローアップコース」等のご案内をいたします。

登録がお済でないインストラクターの方はこちらの URL から登録できます。

<http://www.ncpr.jp/trainingSite/>

The image shows two screenshots of the NCPR training site registration process. The left screenshot is the login page, and the right screenshot is the registration page. Both pages have a red circle highlighting the necessary input fields. An arrow points from the login page to the registration page.

インストラクター修了認定番号、メールアドレスなどの必要事項を入力  
のうえ、登録希望のトレーニングサイトに✓して送信してください。

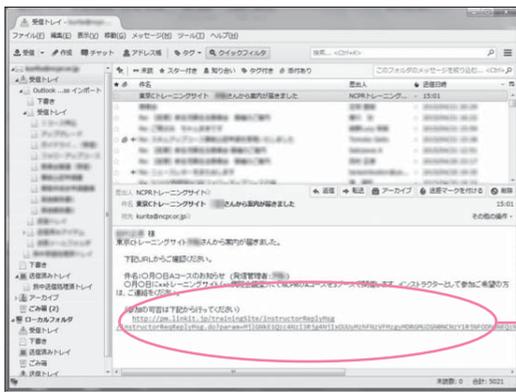


登録情報の変更

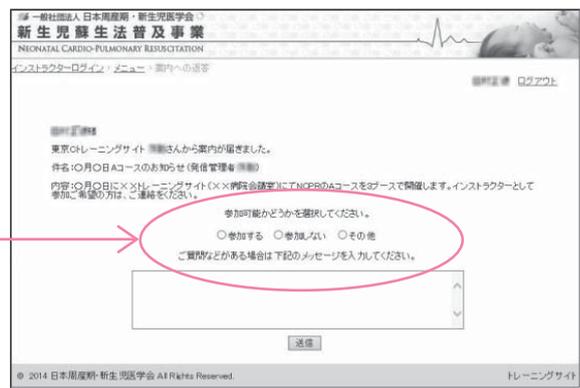
転勤などで登録サイトを変更・追加したい場合はこちらで修正ができます。

メッセージの送受信

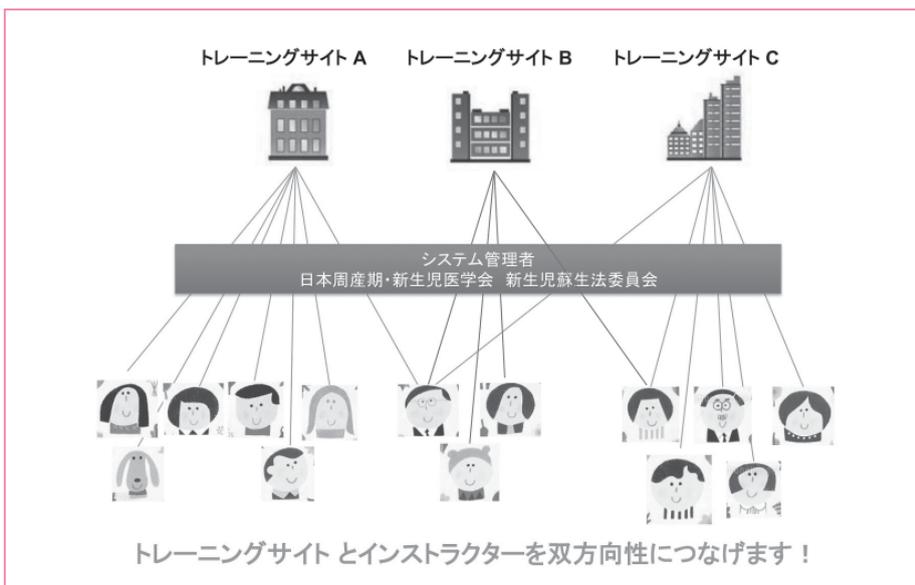
登録したトレーニングサイトへ連絡したい場合こちらからメッセージを送れます。



トレーニングサイトからの各種ご案内は、登録したメールアドレスに届きます。



メールの中の URL をクリックすると、参加応答やメッセージの返信ができます。



# N CPR講習会 開催だより

2015  
N CPR

今回は勤医協札幌病院と  
沖縄県周産期ネットワーク協議会のご紹介です。



## 勤医協札幌病院 麻酔科医が主催する新生児蘇生講習会

林 泉 勤医協札幌病院麻酔科  
長島 香 勤医協札幌病院産婦人科

今年4月に事務局から講習会開催便りの原稿依頼が届きました。過去のニュースでは中心的に活躍されている周産期施設が紹介され、なぜ当施設が?という疑問がありましたが、小規模でも公募開催、麻酔科医がインストラクションする稀な存在、麻酔科医を対象とした講習会も併設、などが評価された(?)と考え執筆を引き受けました。

### 勤医協札幌病院の紹介

当院は、北海道札幌市にある105床の一般病院です。札幌の繁華街ススキノから車で約10分、地下鉄大通駅から徒歩2駅目と利便性の良い所にあります。2014年の分娩数は471件、帝王切開は84件(帝王切開率18%)です。私(林)の専門は麻酔科ですが、麻酔科医のN CPR認定者は非常に少なく2015年3月時点で約200人、インストラクターは約20人で、N CPR事業では医師/その他に分類されます。その占有率を高めるべく奮闘中です。

### 講習会開催までの道のり

2008年に今の病院に着任、半年後に担当した帝王切開で重症新生児仮死を経験しN CPRの必要性を痛感しました。そこで2012年6月にAコース

認定資格を、11月にインストラクター資格を取得し、翌2013年2月3日に第1回講習会を開催しました。当初、対象者は院内の周産期スタッフだけでしたが、第3回目から公募開催としています。

当院のインストラクターは私と産科医のN女史の2人、インストラクター補助としてAコース認定者に手伝いをお願いしています。

### 講習会開催状況(2013年2月~2015年5月)

開催数：12回

受講生：72名(院内30名、院外42名)

職種別：助産師29名、看護師6名、医師37名

(小児科5名、産科5名、麻酔科17名、  
研修医10名〈数名はその後に産科や  
小児科へ〉)

## 麻酔科医がインストラクター？

現在、日本の出産数103万人の内、約20万人が帝王切開での出産です。帝王切開の麻酔担当は6割が産科医、残り4割(約8万人)が麻酔科医です。麻酔科医は、主に手術麻酔を生業としており蘇生法に関してはプロですが、NCPRに関してはどうでしょう。アルゴリズムの存在は知っているとしても30秒ごとの評価と処置が適切にできるでしょうか？ 麻酔科医が所属する多くの病院ではスタッフが充実し、小児科医がNCPRを行うのを横目で見ているだけという施設もあるかと思えます。しかし、麻酔科医も周産期医療チームの一人です。

## 当院の講習会 3つの特徴

### 1. 麻酔科医がインストラクションする一般向け講習会(Aコース)

年3、4回ですが第4土曜日に8名枠で一部公募制。全員が公募という時もあります。遠くは釧路、函館、弘前からの参加者もいます。講習会では大きく氏名と受講番号を記載した2色のベストを着用しオレンジチーム・バナナチーム(N女史が命名)の2グループで行います。基本手技は当院の蘇生人形1体とレンタル人形1セットを用いた2ブースで効率よく、シナリオ実習は1ブースで実践的に行います。バック&マスクの基本手技は麻酔科医の立場から丁寧に、30秒という時間感覚はタイマー無しでも行えるよう、「人工呼吸は1秒に1回、30回で声出して」と具体的に教えています。

※テキストでは人工呼吸40~60回/分

### 2. 麻酔科医対象の講習会(Aコース)併設

一般向け講習会の翌日(日曜日)に6名枠の公募制で行います。関東や九州からの参加者もおります。全員が麻酔科医ですから基本手技はお手の物。逆に、新生児の取扱いや蘇生の初期処置、シナリオ実

習に時間をかけます。まだ知名度が低いので1回の受講生2~4名で、結果的に濃密なシナリオ実習となります。他施設の麻酔科医と情報交換ができるので私にとっては楽しい時間帯です。現在まで4回、計10名の麻酔科医がこの講習会を受講しています。ちなみに、“麻酔科医対象のNCPR講習会”は2012年に北里大学産科麻酔部門が開催したのが最初です。

講習会は朝9時スタート、14時30分終了で最終便の飛行機には間に合うよう配慮しています。遠方から前泊して札幌を満喫し翌日に講習会を受講して帰られる方もおります。

### 3. アンケート調査と受講生への御礼メール

終了時に受講生の満足度アンケート調査を行い、次回の参考資料としています。また、その日の内に受講生全員に写真を添付した参加御礼メールを出しています。評価されることで次回開催へのモチベーションが上がります。



基本手技の実習

麻酔科医のシナリオ実習



講習会時期に合わせて、院内スタッフ2~3人を対象とした“昼休み30分ハピリ講習会”も定期的に行っています。現在、病棟助産師の9割、産科と小児科医師の8割がAコース認定者です。

当院のNCPR講習会を紹介しました。講習会は受講生と開催者の両方にとって学びの場となります。憧れの札幌でNCPRを学びませんか？ 遠方からの申し込みも大歓迎です。

## 沖縄県周産期ネットワーク協議会



真喜屋智子 沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センター 新生児内科  
 屋良 朝雄 那覇市立病院 小児科  
 大庭 千明 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 新生児科

私(真喜屋)は2004年にハワイでNRPを受講しました。その際、体を動かしながら体得していく講習会に魅力を感じ、沖縄に帰って早速、院内で小規模なNRP講習会を行っていました。2007年7月から始まった日本版新生児蘇生法(NCPR)講習会ではコアイストラクターとなり、現在も沖縄県のNCPR講習会普及に携わっています。これまで県内ではAコース41回、Bコース6回を開催し、延べ716人が受講しました。今回は、私たちのNCPR普及の取り組みについてご紹介します。

### 沖縄県の実情と沖縄県周産期ネットワーク

沖縄県は出生率が全国1位で低出生体重児の割合も多いです。沖縄本島には2つの総合周産期母子医療センター(県立中部病院、南部医療センター・こども医療センター)と3つの周産期母子医療センター(那覇市立病院、沖縄赤十字病院、琉球大学附属病院)があります。また、宮古島と石垣島の県立病院では離島で出生した新生児に対応しなくてはなりません(図1)。県内のNICUは常に満床状態ですが、離島県のため「満床でも県内でなんとかするしかない!」との意識が強く、昔から周産期セ

ンター通しのつながりが密でした。“沖縄県周産期ネットワーク”は、そんな中で新生児科医の先輩方が作り上げた組織です。

### 県をあげてNCPR普及を支援

「沖縄県が標準的医療から遅れないように」との思いで、2008年から県立中部病院で公認講習会を開始しました。当時、インストラクターは私1人で、蘇生人形もなく困っていましたが、開業産科の先生に支援をいただき必要物品をそろえることができました。一施設でスタートした講習会も、回を重ねるごとにインストラクターが増え、受講希望者が多くなったため、2009年からは中北部地区と南部地区の2か所で講習会を行うようになりました。2010年からは沖縄県周産期ネットワークが支援母体となり、講習会がよりスムーズに運営できるようになりました。

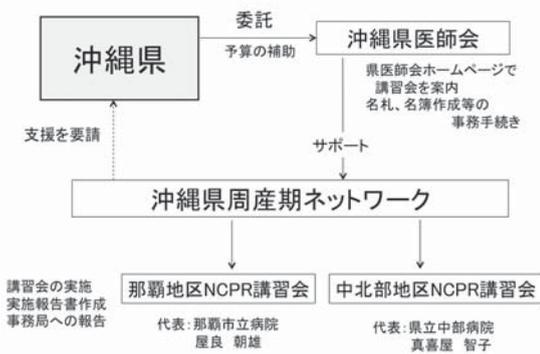
沖縄県にとって周産期医療体制の整備は重要な課題です。沖縄県周産期ネットワークの働きかけで、2012年から2年間、本講習会が県の「新生児蘇生法講習会実施事業」として正式に承認され、沖縄県医師会に委託して講習会を支援してくれま

図1 沖縄県の周産期施設



した。(図2)県から予算を頂けたことで、消耗した講習会物品の買い替えや離島(宮古島、石垣島)での講習会も実現しました。この講習会は大変好評で、今後も沖縄県、県医師会が支援を継続してくれることを期待します。沖縄県産科医会や県助産師会も協力的で、このような県をあげたサポートが私たちのモチベーション向上にもつながっています。

図2 沖縄県のNCPR講習会の位置づけ



## インストラクターの質を保つために

1コース修了者は自身で公認講習会を開催することができますが、私たちはインストラクターの質を保つため、県内の修了者には南部地区、中北部地区講習会のどちらかに参加をお願いしています。講習会では、インストラクターの様子をビデオ撮影し反省会で供覧したり、受講生への声掛けなどについて意見を交わします。また、講習会修了者を次回のインストラクター補助に誘い、人に教えることで自信をつけてもらうよう工夫しています。アイスブレイキング専門(?)のY先生がみんなを大爆笑させて和ませたり、いつもはおとなしい看護師のDさんが講習生の意見を上手に引き出しているのを見ると、人の教え方から学ぶものは大きいと感じます。皆で協力し、受講生に満足してもらえるよ

うな講習会を作っていきたいと思います。

また、九州のトレーニングサイトである鹿児島市立病院のご厚意で、2012年に沖縄県で出張1コースを開催していただき、インストラクターがさらに増えました。

## 受講生からの要望

2014年に行った沖縄県NCPRの調査では、受講生の内訳は医師28%、助産師39%、看護師31%、その他(救急救命士、看護学校教員など)2%でした。看護職からは「自施設でNCPRを実践したくても医師が協力しないと変えられない」という意見がありました。開業医からは「土曜日は外来があるので日曜日に開催してほしい」「前もってスケジュールがわかると予定が立てやすい」などの意見がありました。現在、年8回の講習会と離島での出張講習会(1~2回)を定期開催していますが、あらかじめ年間スケジュールを立て、土日交互に開催するなどの工夫をしています。



実技演習①

実技演習②



今後は県内の方だけでなく県外からも受講してもらえるよう、この講習会普及の取り組みを広げていきたいです。みなさん、ぜひ沖縄のきれいな海を見に来てください!